

魚鮓

然リ

〔倭訓栞編十二〕すし 鮓も鮓も同じ、味酸し、日本紀に醢もよめり、こけらすしは本草に玉版鮓

と見えたり、又鮓の連子鮓もいへり、

〔重修本草綱目啓蒙附三寸〕魚鮓 スシ。 一名包盧名物 苞盧異名物 魚醢 藏魚 糝岳將軍同上

鮓正字 鮓同上

城州ニハ青花魚ヲ鮓ト爲、江州ニハ鯽魚、香魚、黃鯛魚ヲ鮓トス、勢州桑名ニハ撥尾魚ヲ鮓トス、羽州奥州ニハ、ハタノヲ鮓トス、越前ニハ、ツカヘヲ鮓ト爲、城州宇治ニハ鰻鱺魚ヲ鮓トス、宇治丸

ト云、奥州ニハ、ニシンヲ鮓トス、

養魚

〔農業全書十生類養法〕水畜

水畜として魚をかひ生立る手立あり、是又史記陶朱が傳に見えたり、先鯉鮓を池にて生立る事は、池の廣さ水の面二三段もあらば、其中に島を六つも七つも作り、ふかき池塘には島つく事ならず、淺きとて人力おほく費ゆる物なり、池の淺りに力次第島をつきたるはよし、又用水の塘ならば、土石を以て築事さはりなるゆへ、柴籬いばらなどにて、高く稻積のごとく、魚の遊ぶべき日向の所ごとに、いくつもこしらへをき、又其上には、大き

木を枝ながら伐、おもしろにをくべし、小池の中にもあまた所に、作り置ば、是を日夜廻り遊びて、

千里の遠く廣き湖水とひとしく覺るなり、子持鯉の二尺餘りもあるを、甘、牡鯉の同じほなるを四つ、二月の上の庚の日池に放つべし、入る時水の音なき様に、まづかに入べし、さて四月に龜

を一つ入れ、又六月に二つ、八月に三つ入をくべし、池にかめを入るれば、其池の主となりて、大雨

洪水の時、其池の魚躍出落る事なし、又池水の落る水口には、わか竹にて箔を作りて、きびしくつ

よく結立をくべし、來年にいたり、鯉壹万餘ともなり、三年めには池中悉鯉となる、されども池に

より魚の食物乏しければ、多く生立ぬ物なり、其養ひ專一なり、穀物のぬかはしか糶、又野菜の下